

Accuphase

COMPACT DISC PLAYER

CDプレーヤー

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

DP-67

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、お早めに(なるべく10日以内に)ご返送ください。お客様カードと引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

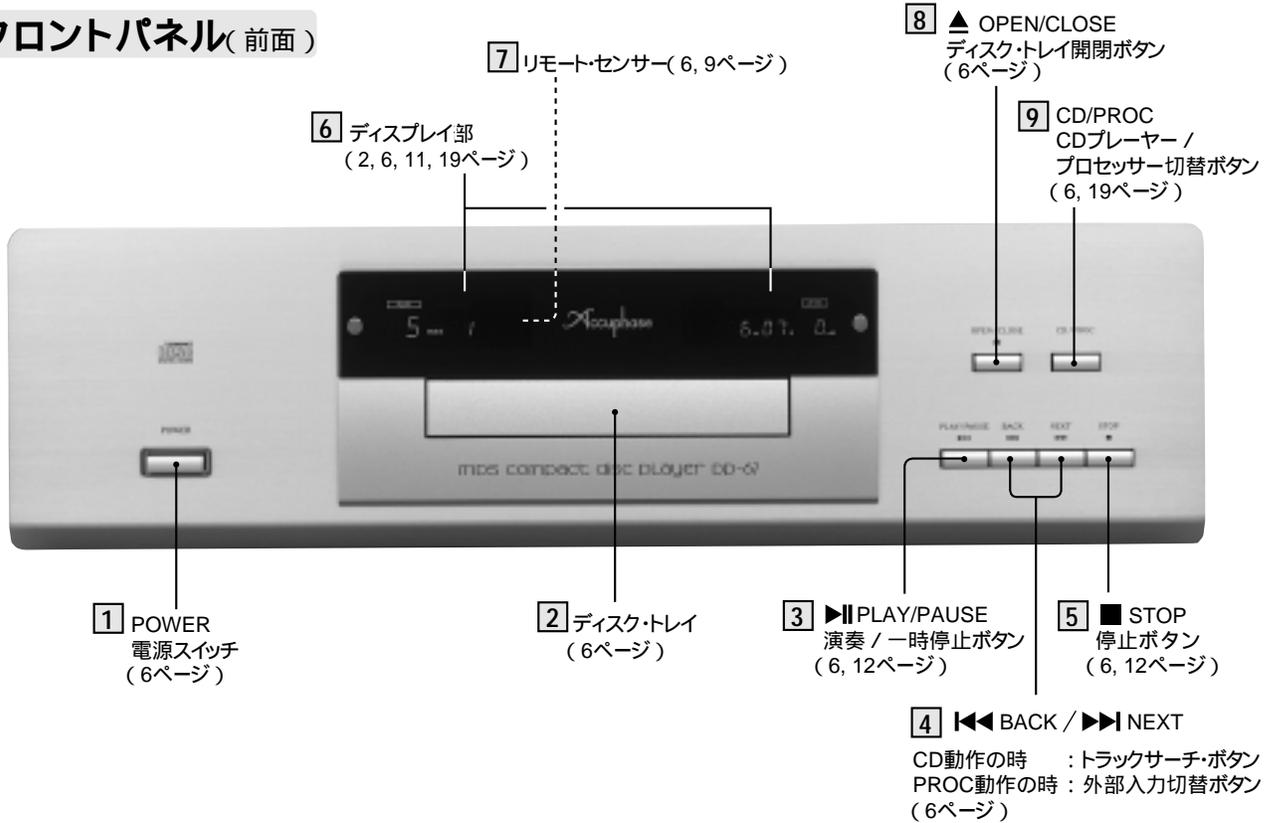
目次

1. 各部の名前	
フロントパネル、リアパネル	1
ディスプレイ部/リモート・コマンダー	2
2.  警告 安全上必ずお守りください	3
お使いになる前に/付属品を確認します	3
3.  注意	4
使用上の注意/ディスクの取り扱い/お手入れ	4
4. 接続図	5
5. 各部の動作説明	6 ~ 8
6. リモート・コントロール	9
7. ご使用方法	
通常のCDプレーヤーとして使用する場合	
演奏の基本操作	10
ディスプレイ部	11
いろいろな演奏方法	12
途中で演奏を中止するには	12
演奏を直ちに開始しないとき	12
トラック(曲)を指定して演奏	12
曲の途中の演奏したい部分を探す	13
リピート(繰り返し)演奏	14, 15
プログラム演奏	16, 17
タイマー演奏	18
デジタル・プロセッサとして使用する場合	
ディスプレイ部の表示	19
CD、MD、DATなどをデジタル入力で再生	20
デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合	21
EXT DSP端子によるDG-28/DG-38の接続	22
8. 保証特性	23
9. 特性グラフ	24
10. ブロック・ダイアグラム	25
11. 故障かな?と思われるときは	26
12. アフターサービスについて	27

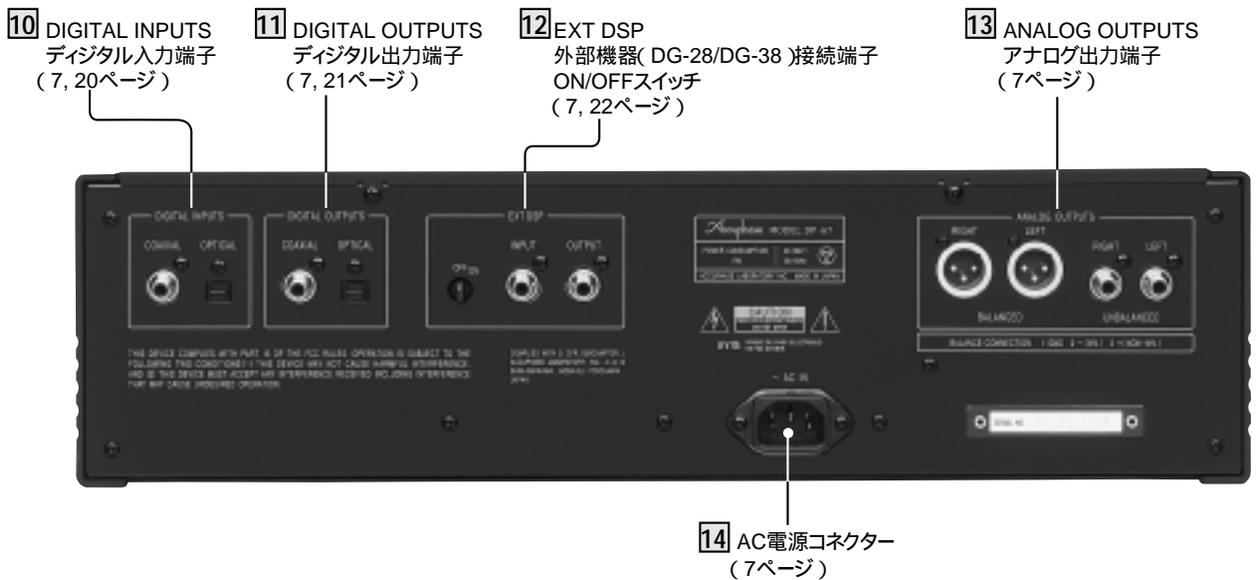
1. 各部の名前

詳しい説明は「各部の動作説明」ご使用方法(6～22ページ)を参照してください。

フロントパネル(前面)



リアパネル(後面)



⑥ ディスプレイ部 (イラストは説明用ですので、実際の表示とは異なります)

CDプレーヤー動作 [CD/PROC]ボタンが「CD」の場合(11ページ参照)

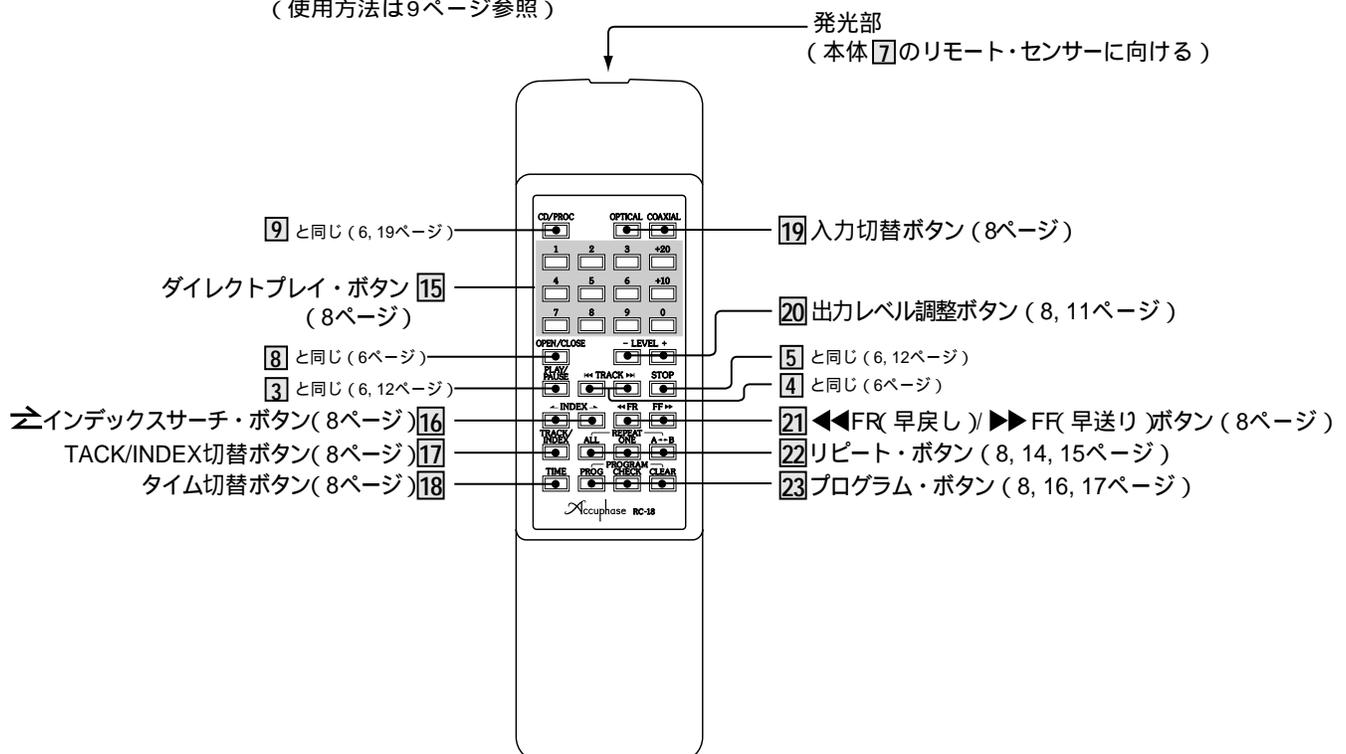


プロセッサ動作 [CD/PROC]ボタンが「PROC」の場合(19ページ参照)



リモート・コマンダー RC-18(付属)

(使用方法は9ページ参照)



2. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

付属以外の電源コードは絶対に使用しない。
ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。
電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしない。
電源コードが傷んだら、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさない。
内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

“ヒューズの交換”など内部の作業はお客様直接はできません。必ず当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

本機はレーザーを使用していますが、レーザー光源をのぞき込まないでください。
レーザー光が目にあたると、視力障害の原因となることがあります。

脚の交換は危険ですから行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

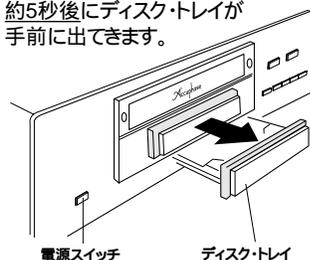
次の場合には、まず本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。発煙など異常がなくなったことを確認して、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨などや燃えやすい物)が入った場合。
故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
落としたり、破損した場合。

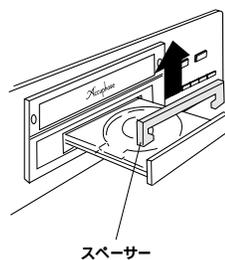
お使いになる前に

レーザー・ピックアップを含む光学部品は輸送時の衝撃から保護するためにロックされています。ご使用前にスペーサーを図のようにはずしてください。

電源スイッチを入れると、約5秒後にディスク・トレイが手前に出てきます。



スペーサーをはずします。



付属品を確認します

取扱説明書	1冊
安全上のご注意	1冊
お客様カード	1枚
AC電源コード(2m)	1本
プラグ付オーディオ・ケーブル(1m)	1組
単3乾電池	2個
リモート・コマンダー RC-18	1個

3. ⚠️ 注意

設置場所について。

必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所

直射日光の当たる所

暖房器具の近くなど温度の高い所

極端に寒い所

振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避けてください。

チューナーやテレビ、ビデオデッキから離して設置してください。

近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。

(特に室内アンテナの場合は注意。)

アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

入出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実にこなしてください。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

音量レベルについて。

CDは、音楽信号に含まれるピーク成分も正確に再現します。したがって、ノイズを聴きながら音量レベルを合わせると、思わぬ大音量が出てスピーカーを破損することがあります。また、音量に対する注意書きがあるディスクは、ボリュームにご注意ください。

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

お手入れ

お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

使用上の注意

CCCDの再生は、動作・音質を保証できません。

コピー・コントロールCD(CCCD)など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD再生機器による再生の動作・音質は保証できません。

CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。

本機で再生できるのは、CDの標準規格に合致したディスクだけになります。再生にあたりましては、音楽ディスク・パッケージの表示をよくお読みください。

本機で再生できないディスク

CD-ROM DVD SACD

DVD-Audio CD-RW

誤って使用するとノイズを発生する場合があります。

CD EXTRA、CD-Rなどは録音状態によっては正常な動作をしない場合があります。

光学系ピックアップの結露について

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいます。CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

ストーブなど、暖房器具をつけた直後

湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

~ディスクの取り扱いについて~

直射日光が当たる場所や、高温多湿のところには置かないでください。

演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。

レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。

ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。

ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

4. 接続図



注意

接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。

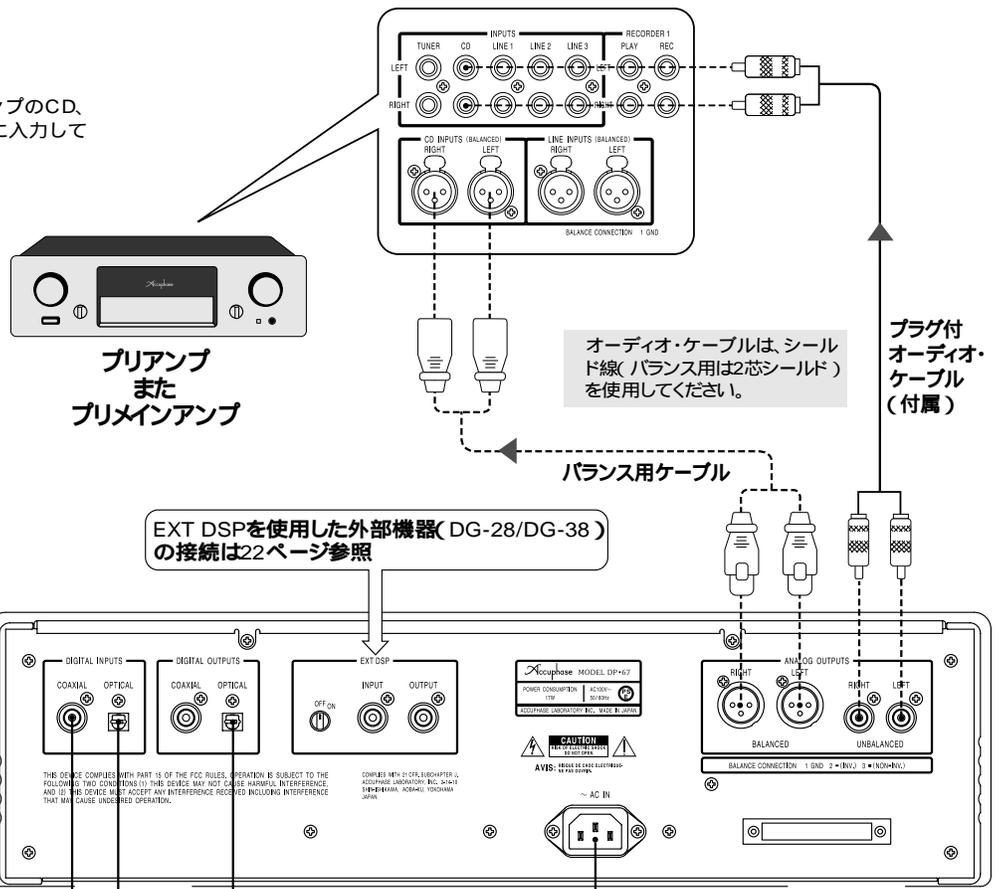
注意 アナログ出力の接続はオーディオケーブルを使用し、LEFT(左) RIGHT(右)を正しく接続してください。バランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。

デジタル機器との接続は、75 同軸ケーブルまたは光ファイバーを使用します。

DAC内蔵アンプに、デジタル同軸出力とアナログ出力を同時に接続して使用しないでください。

アナログ出力の接続

プリアンプまたはプリメインアンプのCD、LINE、AUXと表示のある端子に入力してください。



プリアンプ
また
プリメインアンプ

オーディオケーブルは、シールド線(バランス用は2芯シールド)を使用してください。

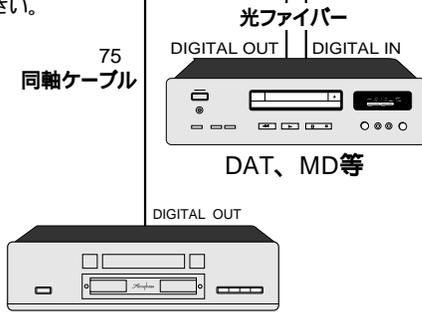
プラグ付オーディオケーブル(付属)

バランス用ケーブル

EXT DSPを使用した外部機器(DG-28/DG-38)の接続は22ページ参照

デジタル入・出力端子の接続

CDトランスポート、DAT、MDなどのデジタル端子と接続してください。



75 同軸ケーブル

光ファイバー

DAT、MD等

CDトランスポートなど外部デジタル機器

AC電源コード(付属)
AC100V、50/60Hz
(7ページ)

5. 各部の動作説明 —— 詳しい使用方法是 ()内のページを参照してください。

1 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。

電源スイッチをOFFにすると、入力ポジション、OUTPUT LEVEL、残り時間表示などを除いて、それまでに設定された機能は解除されます。

2 ディスク・トレイ

▲ OPEN/CLOSE ボタンを押すと手前に出てきます。

トレイを閉めるには

ディスク・トレイ前面を軽く押す。

▲ OPEN/CLOSE ボタンをもう一度押す。

▶▶ PLAY/PAUSE ボタンを押す。

ディスク・トレイが移動している間、ディスプレイ部の表示が点滅します。

3 ▶▶ PLAY/PAUSE 演奏/一時停止ボタン (12ページ)

演奏を開始するとき又演奏を一時停止するときに押します。

4 ◀◀ BACK/▶▶ NEXT トラックサーチボタン

CD/PROCボタンの切り替えで動作が異なります。

CD動作の場合 (10ページ)

本機のCDトランスポート動作となります。

◀◀ BACKトラックサーチ・ボタン

演奏中や一時停止の状態、1回押すとその曲の頭に戻ります。続けて押すと順次、前の曲の頭へ飛びます。

▶▶ NEXTトラックサーチ・ボタン

1回押すと次の曲の頭へ飛びます。続けて押すと順次、次の曲の頭へ飛びます。

PROC動作の場合 (19ページ)

入力切替ボタンになります。

このボタンを押すたびに、外部入力のデジタル入力端子“CO”と“OP”が切り変わります。ただし、リモート・コマンダーの(TRACK)ボタンでは変化しません。

5 ■ STOP(停止)ボタン

演奏中や一時停止中にこのボタンを押すと演奏停止になります。

6 ディスプレイ部 (11ページ)

CD/PROCボタンにより、“CD”(CDプレーヤー動作)と“PROC”(プロセッサ動作)の場合で表示が切り替ります。

7 リモート・センサー

リモート・コマンダーRC-18の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください。

8 ▲ OPEN/CLOSEボタン

押すと、ディスク・トレイが手前に出てきます。もう一度押すとトレイは中へ入ります。

ディスクが入っている場合には、全曲数と全演奏時間を表示します。

CD/PROCボタンで“PROC”の場合でもこのボタンを押すと作動しますので、ディスクの出し入れはできます。

9 CD/PROCボタン (19ページ)

押すたびに、CDプレーヤー動作とプロセッサ部動作が交互に切り替わります。ディスプレイ部の表示で確認します。

CD : 通常のCDプレーヤーの動作

PROC : 外部接続機器と本機プロセッサ部の動作。

CDプレーヤー演奏中に“PROC”に切り替えると、CDプレーヤー動作はSTOP状態になります。

10 DIGITAL INPUTS デジタル入力端子 (20～22ページ)

本機をデジタル・プロセッサとして使用する場合の入力端子です。

CDトランスポート、DAT、MD、などのデジタル信号を、同軸ケーブルや光ファイバーなどで同時に入力することができます。

OPTICAL：光ファイバーで接続
COAXIAL：75 同軸ケーブルで接続

11 DIGITAL OUTPUTS デジタル出力端子 (21ページ)

選択した(現在演奏している)ソースのデジタル信号を出力します。

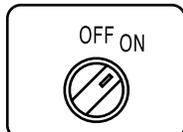
DAT、MD、CD-Rなどのデジタル入力端子と接続すると、デジタル録音が可能です。

12 EXT DSP 外部機器(DG-28/DG-38)接続端子 (22ページ)

外部デジタル機器を接続して、「EXT DSP」スイッチをONにすると、接続機器の信号を本機と接続することができます。DG-28/DG-38を接続すれば、デジタル信号での音場補正が可能です。

「EXT DSP」スイッチ

OFF：通常の使用時
ON：外部デジタル機器接続時



工場出荷時はOFF

INPUT：外部デジタル機器の信号を入力します。
OUTPUT：本機のデジタル信号を出力します。

注意

「EXT DSP」スイッチOFFの場合

外部機器を接続していないとき、接続しても外部機器の電源スイッチがOFFの場合には、アナログ出力が途切れます。

13 ANALOG OUTPUTS アナログ出力端子

アナログ出力は、アンプのCD、LINEまたはAUXの入力端子と接続します。

出力レベルはリモート・コマンダーのOUTPUT LEVEL ボタンで可変できます。

UNBALANCED(不平衡出力)ジャック

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルでアナログ出力を取り出します。

BALANCED(平衡出力)コネクター

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクターです。

ピンの極性は、次のようになっています。プリアンプ側の極性と合わせて接続してください。



：グラウンド
：インパート(-)
：ノンインパート(+)

バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

14 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



電源は必ずAC100V、50/60Hz家庭用コンセントを使用する。

電源コードの極性表示について
本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのコールド側に「W」マークを刻印しています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。



「W」マークをコールド側にする。

注意

室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

15 ダイレクトプレイ・ボタン (12ページ)

トラック(曲)の番号を直接指定して、演奏を開始させることができます。PAUSE中、STOP状態の時、演奏中であってもこのボタンが優先します。

16 INDEX インデックスサーチ・ボタン (13ページ)

インデックス付きディスクの場合、そのインデックスの頭から演奏を始めることができます。

17 TRACK/INDEXボタン (11ページ)

ボタンを押すごとに、トラック番号、インデックス番号を繰り返し表示します。

18 TIMEボタン (11, 17ページ)

④ タイム・インジケータの表示モードを切り替えるボタンです。

通常は曲中の経過時間を表示していますが、ボタンを1回押すごとに



を繰り返し表示します。このように、ボタンを押す度に4種類の時間表示が循環します。

19 入力切替ボタン (19ページ)

DIGITAL INPUTS端子に入力された信号を直接選択します。

OPTICAL : 光ファイバーで入力された信号を選択

COAXIAL : 同軸ケーブル端子に入力された信号を選択

20 OUTPUT LEVEL - 出力レベル調整 (11ページ)

デジタル方式により、0dB ~ -40dB間(1dBステップ)のレベルを可変できます。

21 ◀◀FR(早戻し)▶▶FF(早送り)ボタン

PLAY(演奏)中およびPAUSE(一時停止)中に作動させることができます。ボタンを押し続けている間作動します。

22 REPEAT(繰り返し演奏)ボタン (14, 15ページ)

ALL(全曲)/ONE(1曲)/A B(指定区間)の繰り返し演奏が可能です。

23 PROGRAM(プログラム)演奏ボタン (16, 17ページ)

ディスクの中から聴きたい曲だけをピックアップして、好きな順序で演奏を楽しむための大変便利な機能です。

6. リモート・コントロール

リモート・コマンダー RC 18

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-18を使うと、離れたところからDP-67の機能をコントロールすることができます。

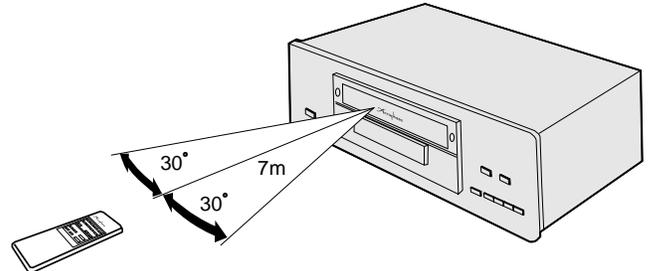
(機能の詳細は2ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の **7** リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単3形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、**+**(プラス) **-**(マイナス)を正しく合わせる。

新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。

種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。

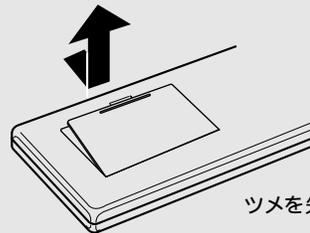
長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

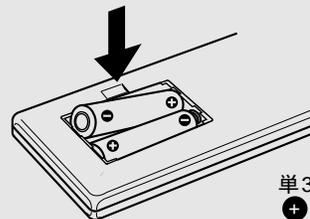
警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

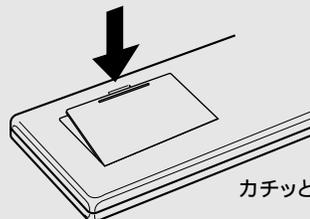
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押して蓋を開ける。



単3形電池2個、**+** **-**を正しく入れる。



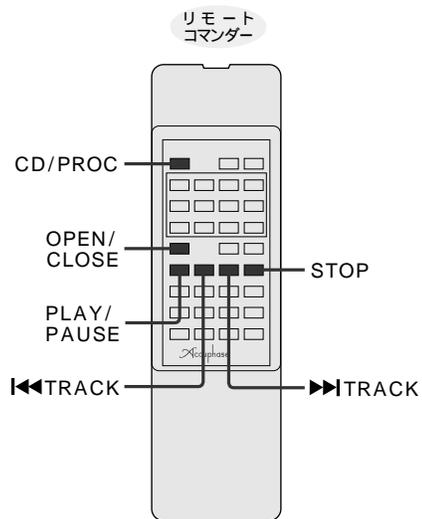
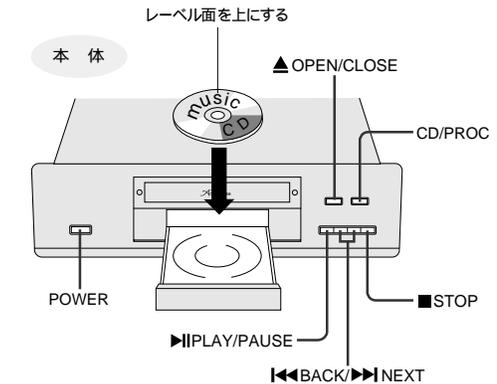
カチッと音がするまで閉める。

7. ご使用方法

通常のCDプレーヤーとして使用する場合

演奏の基本操作

- 1 POWERスイッチを押し、電源を入れます。
- 2 ディスプレイ部に“CO”または“OP”と表示されている場合には、**[CD/PROC]** ボタンを押してCDプレーヤー動作にします。
- 3 ▲ **[OPEN/CLOSE]** ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをテーブルにのせます。
- 5 ▶▶ **[PLAY/PAUSE]** ボタンを押すとディスク・トレイが閉じて、第1曲目から演奏がはじまります。
- 6 最後の曲の演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 7 ▲ **[OPEN/CLOSE]** ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。ディスクを取り出したあと、ディスク・トレイは必ず閉じておいてください。



演奏中の基本操作

- 演奏停止(ストップ) **[STOP]** ボタン
- 演奏を一時停止(ポーズ) ▶▶ **[PLAY/PAUSE]** ボタン(ポーズ中は **[PLAY]** 点滅)
- 一時停止をやめて演奏再開 ▶▶ **[PLAY/PAUSE]** ボタン(演奏中は **[PLAY]** 点灯)
- 1曲先に進む ▶▶ ボタン
- 演奏中の頭または1曲前に戻る ◀◀ ボタン
- ディスクを取り出す ▲ **[OPEN/CLOSE]** ボタン

ディスプレイ部

(2ページ参照)

A PLAY インジケータ

演奏中は点灯、PAUSE中は点滅、STOP時は消灯します。

PLAY

演奏中：点灯



PAUSE中：点滅

B PROGRAM インジケータ

プログラムをセットするときやプログラム演奏中に点灯します。

C REPEAT ALL、ONE、A↔B インジケータ

リピート演奏時に点灯し、ALL(全曲) ONE(1曲) A↔B(指定区間)のいずれかであることを表示します。

D 演奏トラック・インジケータ

演奏中、PAUSE中のトラック(曲)番号を表示します。

TIME ボタンを切り替えて全曲残量時間とトータル経過時間の表示のときは、このトラック表示は消えます。

E TRACK/INDEX インジケータ

TRACK/INDEX ボタンを押すと、表示が切り替わります。

リモート
コマンダ

TRACK
/INDEX



TRACK(点灯):
ディスクに入っている全曲数を表示



INDEX(点灯):
インデックス番号を表示

F タイム・インジケータ

ディスクが入ると全演奏時間を表示します。

演奏中は曲中の経過時間を表示します。

TIME ボタンを押すことにより、図のような表示を繰り返します。

リモート
コマンダ

TIME

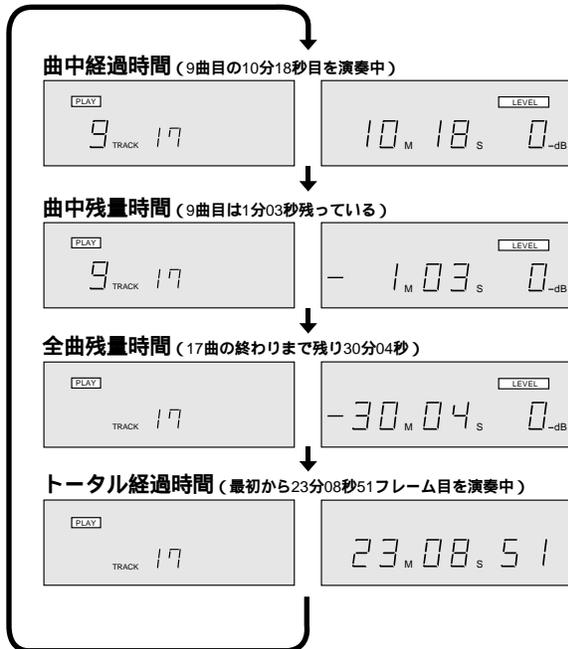


押すごとに表示
が切り替わる

トータル経過時間の場合には、F に分(M)・秒(S)を、G にフレーム(1フレーム = 1/75秒)が表示されます。

残り時間を表示しているときは、数字の前に - 記号が出ます。

演奏が始まる前には経過時間がカウントダウンされますので、- 記号が出る場合があります。



G 出力レベル/フレーム・インジケータ

LEVEL ボタンにより、出力レベルをデシベル (dB) で表示します。

また、TIME ボタンでトータル経過時間を選択した場合には、LEVEL ど - dB は消灯し、フレーム表示となります。

リモート
コマンダ



1dBステップで変化

いろいろな演奏方法

途中で演奏を中止するには

一時停止は

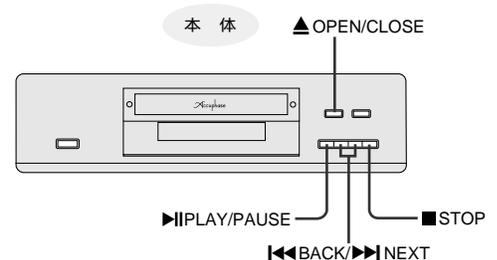
▶▶ [PLAY/PAUSE] ボタンを押します。[PLAY] が点滅して演奏は停止します。一時停止を解除するときは再度 ▶▶ [PLAY/PAUSE] ボタンを押してください。停止したところから演奏が始まります。

演奏を止めるには

[STOP] ボタンを押します。[STOP] ボタンを押した場合は、続きの演奏はできません。

ディスクを取り出すときは

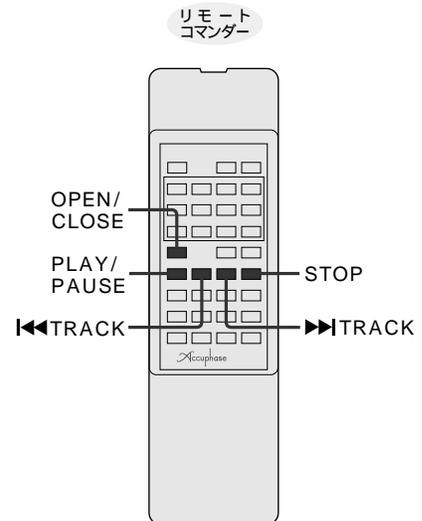
演奏中でも、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押します。



演奏を直ちに開始しないとき

ディスクを入れてからディスク・トレイ前面を軽く押すか、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと、トレイが閉じて合計曲数と総演奏時間をディスプレイして、次の指令があるまでスタンバイ状態になります。

ディスクを入れて▶▶ [PLAY/PAUSE] ボタンを2度押すと、ディスク・トレイは閉じ、第1曲目の演奏開始待ち (PAUSE) の状態になります。



トラック(曲)を指定して演奏

ダイレクトプレイ・ボタンを使うと、トラック(曲)の番号を直接指定して、演奏を開始させることができます。PAUSE中、STOP状態の時、演奏中であってもこのボタンが優先します。

- ① ~ ⑨ までのボタンを押すと、その番号から演奏を開始します。
- +10 と +20 のボタンは10位の桁を、0 ボタンは1位の桁を表します。

例: 23番を演奏するには

- [+10] ボタンを2回押してから [3] ボタンを押します。
- または、[+20] ボタンを押してから [3] ボタンを押します。

30番を演奏するには

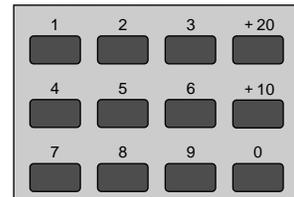
- [+10] ボタンを3回押してから [0] ボタンを押します。
- または、[+10]、[+20]、[0] ボタンを順に押します。

[+10] や [+20] ボタンを押すと、10位の桁が押した回数に比例してカウントアップしていき、1位の桁は一表示されます。1位の桁は5秒以内に指定しないと元に戻ってしまいます。

演奏途中に [+10] や [+20] ボタンを押してから次のボタンを押すまでは、そのまま演奏が続きます。

ディスクのトラック番号を超える数字が入力されたときは、そのディスクの最終トラックの演奏を開始します。

ダイレクト・プレイボタン



トレイが出ているか、ストップ状態で、トラックサーチ・ボタンを使って、任意の曲を選択し、**▶▶** [PLAY/PAUSE] ボタンを押します。

▶▶ [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、演奏が始まる前にトラックサーチ・ボタンを使うと、任意の曲の頭から演奏を開始することができます。

曲の途中の演奏したい部分を探す

演奏中に探す

◀◀FR / ▶▶FF ボタンを押し続けます。

希望の部分に近づいたらボタンを離します。その部分から演奏を始めます。

ポーズ(一時停止)中に探す

◀◀FR / ▶▶FF ボタンを押し続けます。

目的のトラックと分・秒を合わせて演奏を開始することができます。

インデックスで探す:インデックス・サーチ

インデックスとは、1曲の中での音楽の区切りを示す記号です。

PLAY およびPAUSE状態のときINDEXボタンを使うと、曲の途中のインデックスから演奏を始めることができます。

インデックス・サーチは、(IN DEX)の表示がついているディスクで有効です。

◀ [BACK INDEX] ボタン

ボタンを1回押すと、前のインデックスの先頭に飛びます。続けて押すと順次インデックスをカウントダウンします。

▶ [NEXT INDEX] ボタン

ボタンを1回押すと、次のインデックスの先頭に飛びます。続けて押すと順次、インデックスをカウントアップします。

サーチ中はタイム・インジケータは消えます。また、音もでません。

インデックスをサーチすると、**Ⓢ** TRACK/INDEXインジケータはインデックス番号表示に変わります。元の曲数表示(最終トラック番号表示)に戻すときは、TRACK/INDEXボタンを押してください。

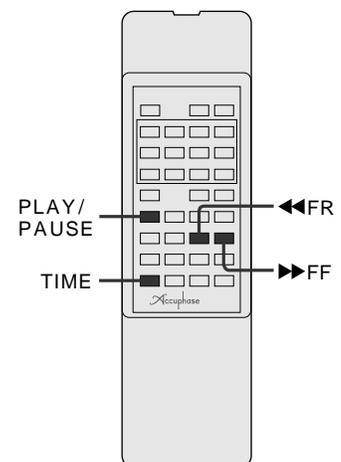
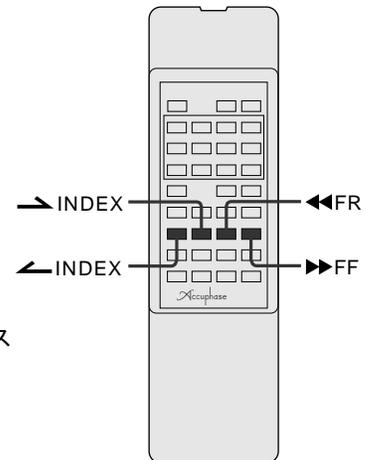
フレーム(1/75秒)単位の頭出し

[TIME] ボタンの選択により絶対経過時間を表示(フレーム表示)させ、PAUSE状態にします。

◀◀FR / ▶▶FF ボタンにより演奏開始フレームを指定します。この時は、頭出しに便利のように小音量で音がでます。

再度**▶▶** [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、音は消えて通常の一時的停止状態に戻ります。

更に**▶▶** [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、指定したフレームより演奏を開始します。



リピート(繰り返し)演奏

REPEATボタンを使い分けると、ディスク全曲/1曲/指定した特定部分の繰り返し演奏ができます。

リピート解除は、ボタンを再び押すかディスク・トレイを開けてください。**STOP**ボタンでは解除できません。

リピート演奏中でもトラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し・早送りなど、全ての動作が通常と変わることなく操作できます。

ディスク全曲の繰り返し演奏

ALL 点灯

ALL ボタンを押してください。全曲を繰り返し演奏します。

1曲だけの繰り返し

ONE 点灯

ONE ボタンを押します。押したときのトラックを繰り返し演奏します。

トラックサーチ、早戻し・早送りなどで演奏しているトラックが変わったときは、そのトラックのリピートを行いません。

指定区間の繰り返し演奏

A↔B ボタンを使います。

1 演奏中に起点となるところ『A点』で**A↔B**ボタンを押す。

“**A↔B**”インジケータが点滅してA点が設定。



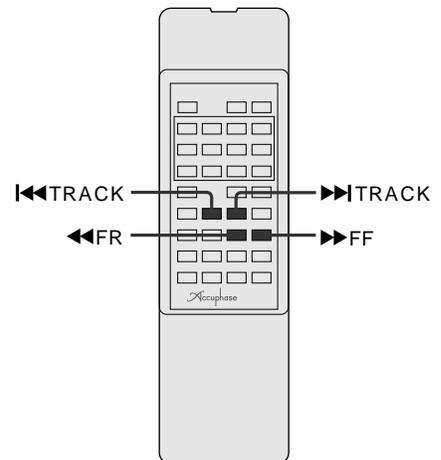
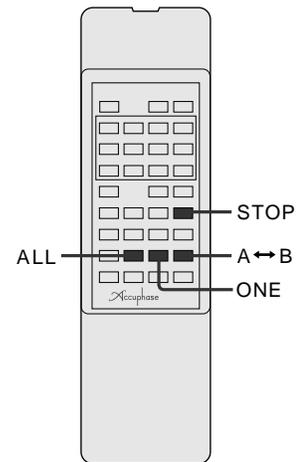
2 折り返したいところ『B点』に到達したら、再度このボタンを押す。“**A↔B**”が常時点灯に変わって、演奏はA点に戻る。



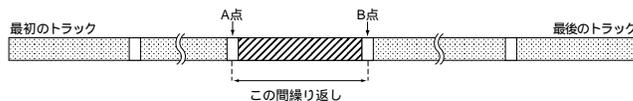
3 A～B間を繰り返して演奏する。

早送り・早戻し、トラック・サーチのボタンを使うと、手早くA点、B点を決めることができます。

PAUSE(一時停止)中にも設定可能です。

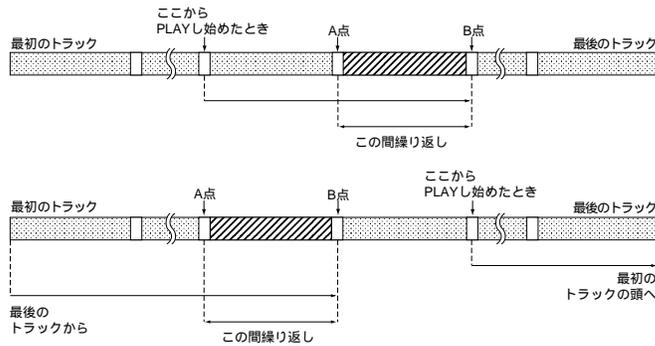


《A点がB点より時間的に前のとき》



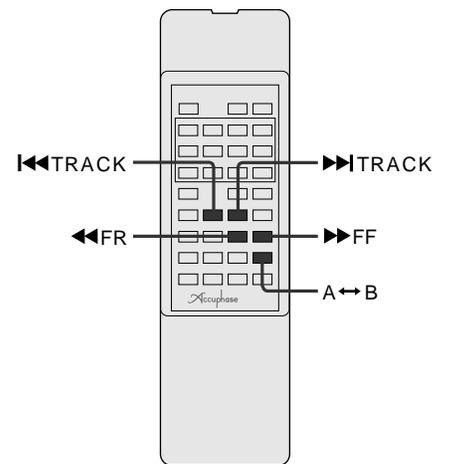
《指定区間外からPLAYしたときのREPEAT動作》

トラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し・早送りなどにより指定区間を飛び出した場合には、図のように動作します。

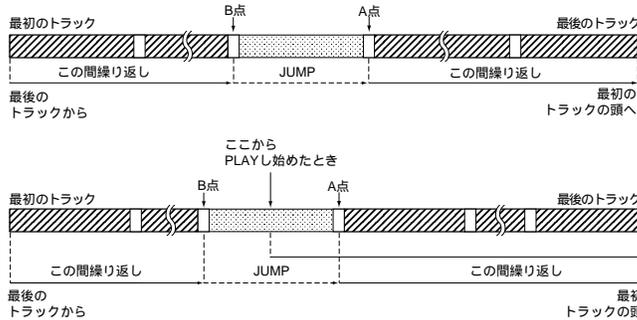


特定の曲・区間をジャンプさせて演奏

A点より手前にB点を設定すると、B～A間をジャンプした演奏が可能です。まず、A点を設定したらトラックサーチや早戻しボタンを操作して、B点を手前に設定してください。A点から最後のトラックの演奏が終わると、今度は最初のトラックの頭から演奏が始まり、B点に到達すると直ちにA点へジャンプします。



《B点がA点より時間的に前のとき》

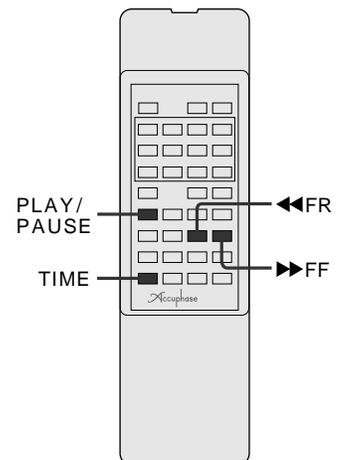


フレーム単位での特殊な繰り返し演奏

TIME ボタンでトータル経過時間を選択しフレーム単位まで表示させます。

▶▶ [PLAY/PAUSE] ボタンを押しポーズ状態にします。

◀◀FR/▶▶FFボタンで、前項の様にA点、B点を設定すれば非常に短時間(フレーム単位)の繰り返し演奏ができます。



プログラム演奏

PROGRAMボタンを使うと、聴きたい曲だけを好きな順序で演奏を楽しむことができます。20曲までのプログラムが可能ですから、限度以内のディスクなら曲の演奏順序を変えて楽しんだり、同一の曲を指定回数だけ繰り返し演奏させることも可能になります。

プログラムをするには (リモートコマンダーを使用します)

STOP ボタンを押します。

PROG ボタンを押すと **PROGRAM** が点灯してプログラム開始可能となります。

演奏中や一時停止中にプログラム演奏のセットはできません。

プログラム・モードを解除するには、再び **PROG** ボタンを押してください。

STOP ボタンでは解除できません。

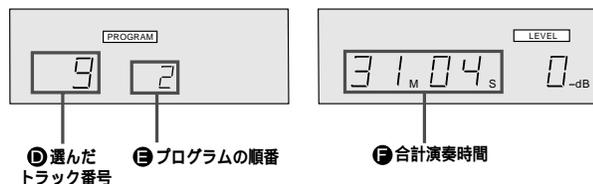
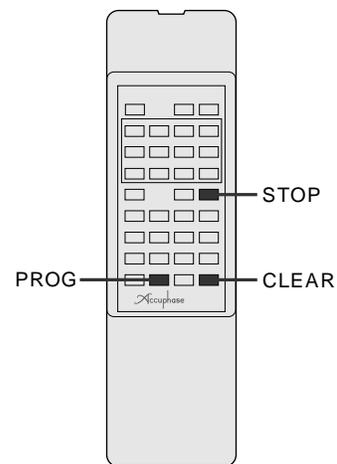
PROGRAM が点灯したら

ダイレクトプレイ・ボタンで希望する演奏トラックの順序に従って曲番を入力していきます。

ボタンを押して曲番を入力すると、**①**にトラック番号、**②**にプログラムした順序、**③**にプログラムした曲の合計演奏時間が表示されます。

この時間表示は99分59秒を越えると $\text{---}_M\text{---}_S$ となります。

曲番を押しまちがえたときは、**CLEAR** ボタンを押します。



プログラムしたトラック番号を確認するには

トラックサーチ・ボタン **◀◀BACK** と **▶▶NEXT** を使用します。

プログラムした順番で順次、表示させることができます。

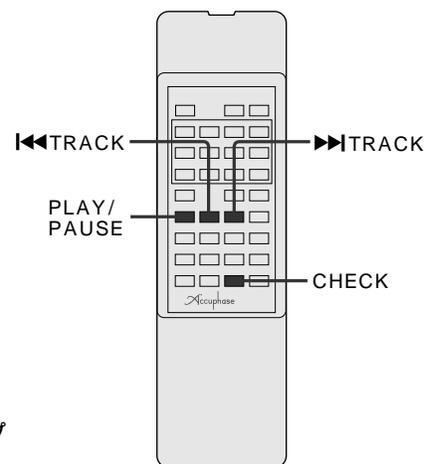
プログラムのセットが完了したら

▶▶ **PLAY/PAUSE** ボタンを押して演奏開始です。

プログラム演奏中にプログラムの演奏順序や曲数がチェックできる

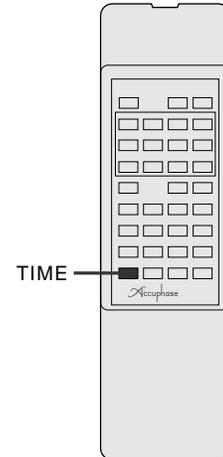
CHECK ボタンを1回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に曲番がディスプレイされます。

そのまましておけば、2秒後に解除されて、ボタンが押される前の状態に復帰します。なお、チェック中は時間表示はありません。



プログラム演奏中にTIMEボタンを押すと

通常は曲中の経過時間を表示していますが、**TIME**ボタンを1回押すごとにモードを繰り返し表示します。

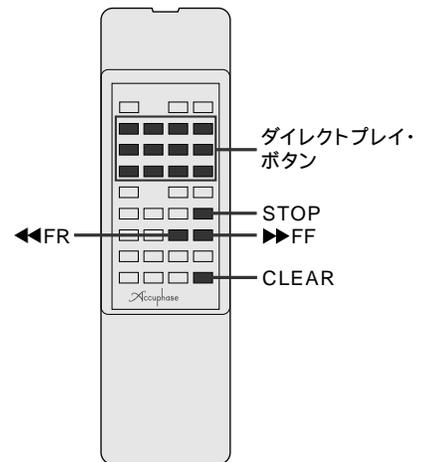


途中にプログラムを追加したいときは

STOPボタンを押します。トラックサーチ・ボタンを使って追加したい場所をディスプレイさせて、**ダイレクトプレイ・ボタン**で入力します。表示されているトラック番号の次のところに追加入力されます。

入力したプログラムを一部削除したいときは

STOPボタンを押します。トラックサーチ・ボタンを使って削除したい曲番を表示させて**CLEAR**ボタンを押します。
PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にはできません。



セットしたプログラムをすべて削除したいときは

ディスク・トレイを開けるか、一旦電源を切ります。

プログラム演奏中のご注意

プログラム演奏中に**PROG**ボタンを押すと、演奏は続行されますがプログラム・モードは解除されて通常の演奏になります。

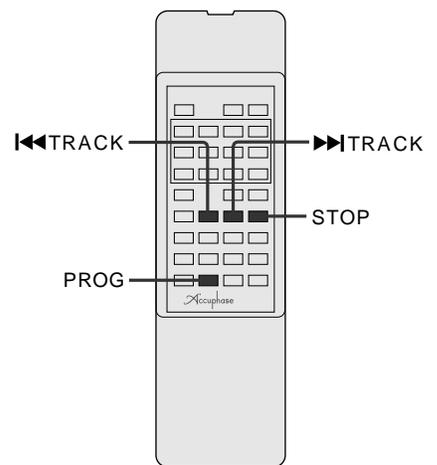
プログラム演奏中に**STOP**ボタンを押すと、演奏は停止しますが、プログラム・モードは解除されません。

プログラム演奏中に**BACK TRACK**/**NEXT TRACK**ボタンを用いれば、プログラム順序に従って、戻り/送りされ、希望のトラックの頭から演奏開始ができます。

プログラム演奏中に**ダイレクトプレイ・ボタン**は作動しません。

REPEAT(繰り返し)演奏は、プログラム演奏中やプログラム中であってもセット可能ですが、**A ↔ B REPEAT**はできません。

プログラム演奏中においても**INDEX**(インデックス)ボタンを使用して演奏を楽しむことができます。



タイマー演奏

“ P-on ”設定すると、ディスクをセットしておけば電源が入ると自動的に演奏が始まります。

市販のオーディオ・タイマーとの組み合わせにより、ご希望の時間に演奏を開始することができます。

出荷時は“ P-oF ”に設定されています。

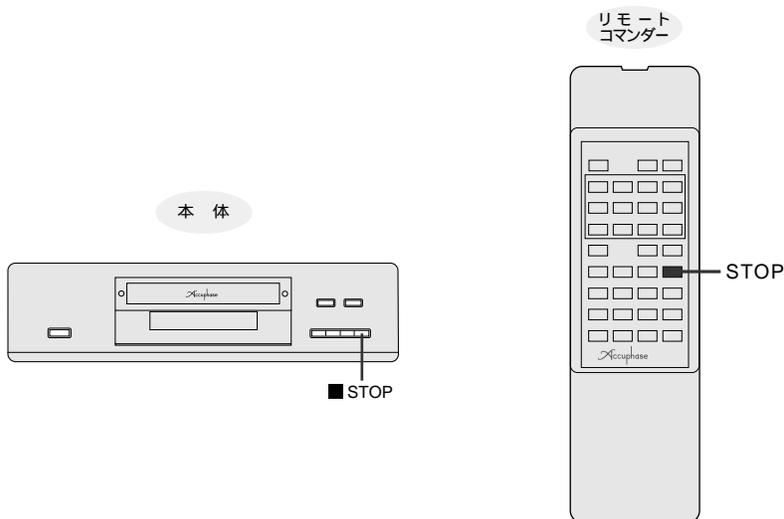
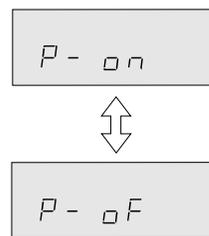
P-on 設定するには

P-oF 設定に戻すには

[STOP] ボタンを約2秒間押しつづけると表示部に [P-on] と表示されます。

再度 [STOP] ボタンを約2秒間押しつづけると、[P-oF] と表示され通常の使用状態になります。

このように、[STOP] ボタンにより [P-on] と [P-oF] が交互に設定されます。ディスクが入っていないくても、この状態を設定することができます。



P-on 設定されると

ディスクをセットしておけば、電源が入ると自動的に演奏が始まります。

P-oF 設定に戻すと

P-oF表示にしますと通常の動作状態です。

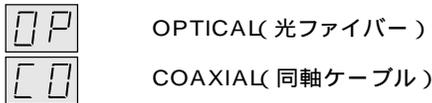
電源ON時に、ディスクが入っていれば内容を読み込んで演奏待機状態になりますが、演奏は開始しません。

デジタル・プロセッサとして使用する場合

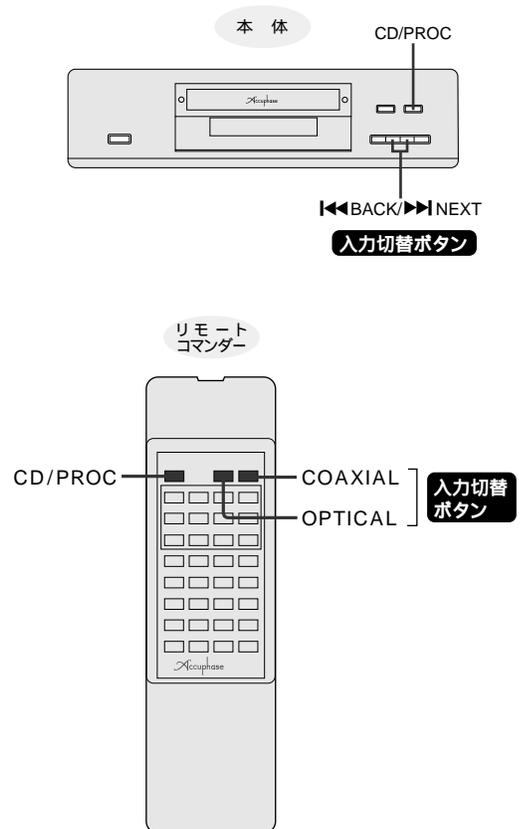
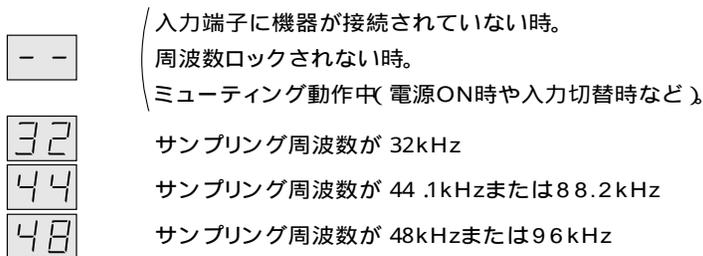
- 1 CD/PROCボタンで「PROC」(プロセッサ)動作にします。
- 2 本体の ◀◀/▶▶TRACKボタンまたはリモートコマンダー (OPTICAL) / (COAXIAL) ボタンで外部入力機器の選択 (OPTICALまたはCOAXIAL) をします。
ディスプレイ部にサンプリング周波数と入力ポジションが表示されます。

ディスプレイ部の表示

- ④ デジタル入力端子インジケータ
入力切替ボタンで選択された入力ポジションを表示します。



- サンプリング周波数インジケータ
外部入力機器のサンプリング周波数を自動検出して表示します。

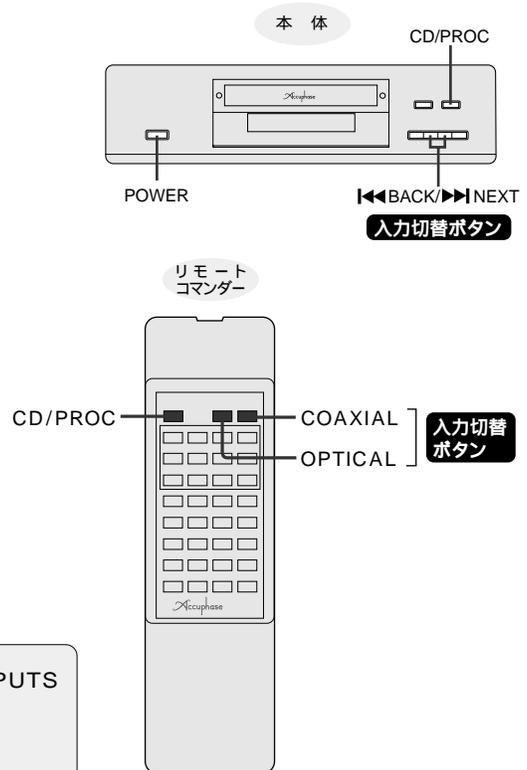
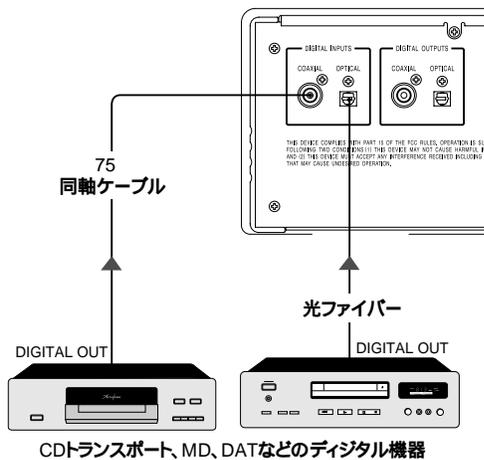


CD、MD、DATなどをデジタル入力で再生

CDトランスポート、MD、DATなどをデジタルで接続します。

接続例

DIGITAL INPUTS ソース側デジタル機器のDIGITAL OUT



操作手順

- 1 CDトランスポート、MD、DATなどのデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUTS 端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れます。
- 3 CD/PROCボタンで「PROC」(プロセッサー)動作にします。
- 4 入力切替ボタンで外部入力機器の選択(OPTICALまたはCOAXIAL)をします。ディスプレイ部にサンプリング周波数と入力ポジションが表示されます。
- 5 外部接続機器を操作して演奏をお楽しみください。

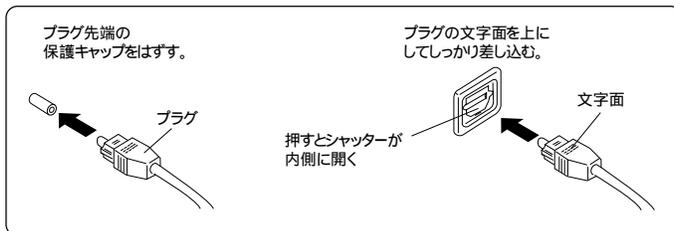
接続ケーブル

COAXIAL

ピンプラグ付75 同軸ケーブル(別売:DL-15等)で接続してください。

OPTICAL

EIAJ規格の光ファイバー接続用端子です。



注意

光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねておいてください。決して強く曲げないでください。もちろん、切断、再加工などはできません。

光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は、大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。

光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

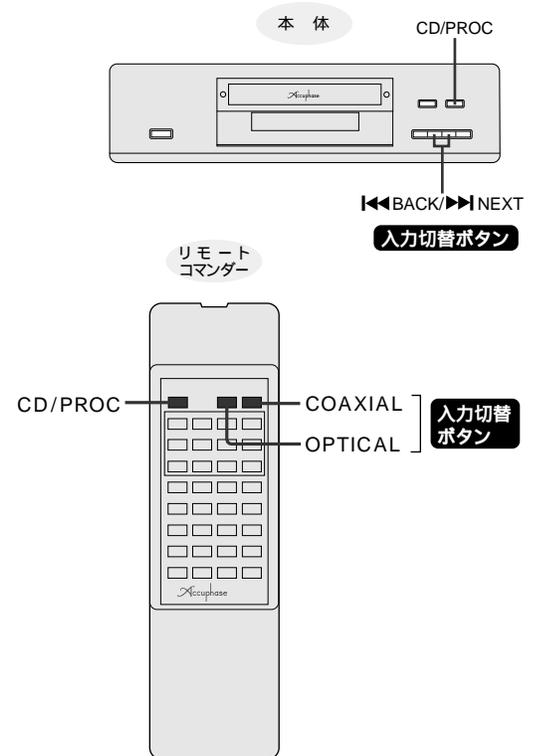
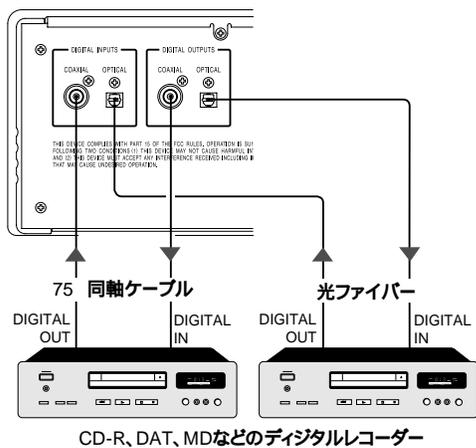
デジタル・レコ - ダ - で録音・再生をする場合

デジタル・レコーダーを接続して、録音・再生ができます。

DIGITAL OUTPUTS端子には、入力切替ボタンで選択した(現在演奏している)ソースが出力され、録音可能になります。

接続例

DIGITAL INPUTS端子 レコーダーの"DIGITAL OUT"
DIGITAL OUTPUTS端子 レコーダーの"DIGITAL IN"



再生: プレイバック

入力切替ボタンで、接続したソース(入力端子)に合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

録音: レコ - ディング

操作手順

録音したいプログラム・ソースをスピーカーから音を出して確認します。

この信号が各DIGITAL OUTPUTS端子からレコーダーへ出力されます。

デジタル録音は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数を設定(変換)します。

レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

各OUTPUT端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音することができます。

注意

* デジタル録音の場合、SCMS(シリアル・コピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDにデジタルで録音することはできません。

* デジタル デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側のサンプリング周波数のマッチングが重要です。基本的には、相互の周波数が合わないと録音できません。

MD、CD-Rへのデジタル録音は、サンプリング周波数が44.1kHzです。32kHzまたは48kHzのソースは、レコーダー側で44.1kHzに自動変換します。(一部の機種を除く)

DATは、ソース側の周波数に自動的に追従します。(一部の機種を除く)

EXT DSP端子によるDG-28/DG-38の接続

デジタル・ヴォイシング・イコライザーDG-28/DG-38をデジタル接続して、現在演奏中のソースをデジタル信号で音場補正することが可能です。

DG-28/DG-38を接続後は、リアパネルのEXT DSPスイッチで挿入をON/OFFすることができます。

*DG-28/DG-38の詳しい使用・操作方法は、DG-28/DG-38の取扱説明書を参照してください。

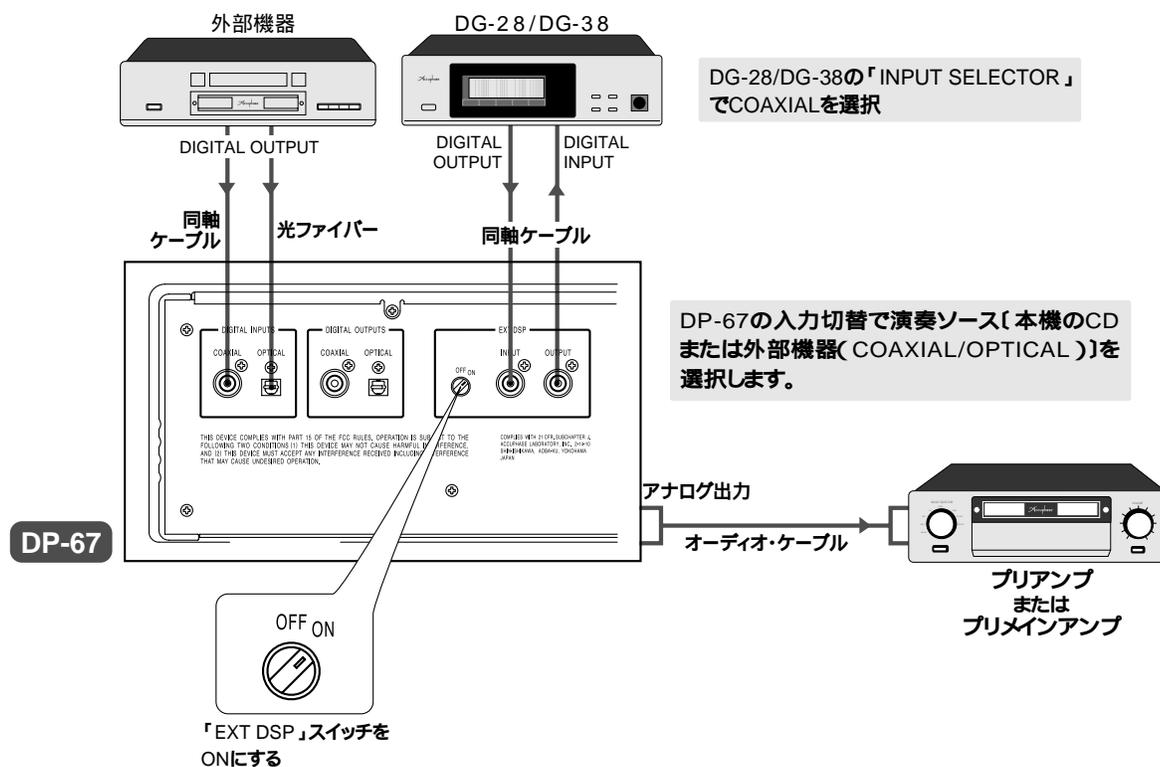
DG-28/DG-38の接続：同軸ケーブル

DP-67のEXT DSPのOUTPUT

DG-28/DG-38のDIGITAL INPUT: COAXIAL

DP-67のEXT DSPのINPUT

DG-28/DG-38のDIGITAL OUTPUT: COAXIAL



注意

EXT DSP スイッチON/OFFの表示はパネル面がないため、正面から確認できません。DG-28/DG-38接続時に必ずON/OFFを確認してください。

EXT DSP スイッチONの場合、EXT DSP端子に機器が接続されていないとき、またはDG-28/DG-38や本機が信号をロックインしないときは、アナログ出力は途切れます。

外部ソース演奏時の場合：ディスプレイ上に が表示されます。

本機のCDソースを演奏の場合：

演奏ディスプレイ表示は正常でも、ロックインしないときは音が出ません。

DG-28を接続して外部ソースを演奏する場合、サンプリング周波数48kHzまでの信号となります。DP-67の出力は、サンプリング周波数96kHzまで対応しますが、DG-28はサンプリング周波数48kHzを超える信号に対応することができません。

8. 保証特性

[保証特性はEIA測定法CP-2402に準ずる]

[測定用ディスク:CP-2403]

CDトランスポート部

フォーマット	: CD標準フォーマット
量子化数	: 16ビット
サンプリング周波数	: 44.1kHz
エラー訂正方式	: CIRC
チャンネル数	: 2チャンネル
回転数	: 500 ~ 200rpm(CLV)
線速度	: 1.2 ~ 1.4m/s一定

読み取り方式

非接触光学式読み取り(半導体レーザー使用)

レーザー

GaAlAs(ダブルヘテロ・ダイオード)

デジタル・プロセッサ部

入力フォーマット

EIAL CP-1201に準拠

量子ビット化数 : 16 ~ 24ビット直線

サンプリング周波数 : 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
88.2kHz, 96kHz

デジタル入力レベル(EIAJ CP-1201)

OPTICAL : 光入力 - 27 ~ - 15dBm

COAXIAL : 0.5Vp-p 75

デジタル出力レベル(EIAJ CP-1201)

OPTICAL : 光出力 - 21 ~ - 15dBm

発光波長 660nm

COAXIAL : 0.5Vp-p 75

周波数特性

4 ~ 20,000Hz ±0.3dB

D/Aコンバーター

24ビット MDS++方式

デジタル・ディエンファシス機能

全高調波ひずみ率(20 ~ 20,000Hz間, 24bit入力時)

0.001%以下

S/N

114dB以上

ダイナミックレンジ

110dB以上

チャンネル・セパレーション

110dB以上

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED : 2.5V 50 平衡 XLRタイプ

UNBALANCED : 2.5V 50 RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0 ~ 40dB間 1dBステップ(デジタル方式)

電源

AC100V 50/60Hz

消費電力

17W

最大外形寸法

幅475mm × 高さ150mm × 奥行396mm

質量

16.5kg

付属リモート・コマンダー RC-18

リモコン方式 : 赤外線パルス方式

電源 : DC 3V・乾電池 単3形2個使用

最大外形寸法 : 55mm × 194mm × 18mm

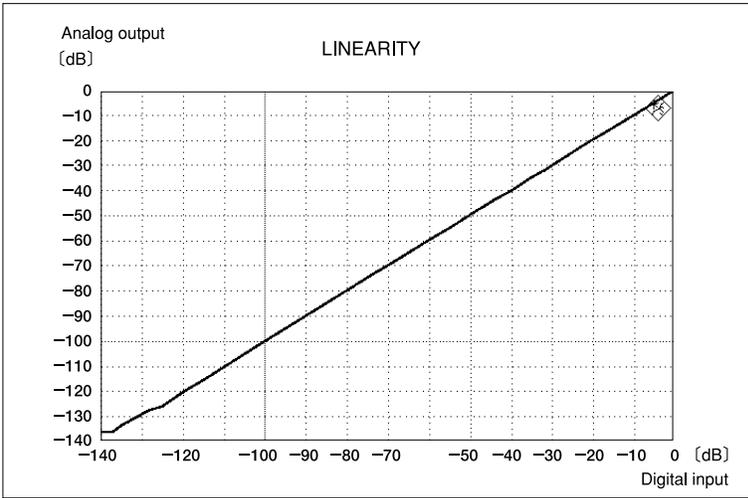
質量 : 100g(電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

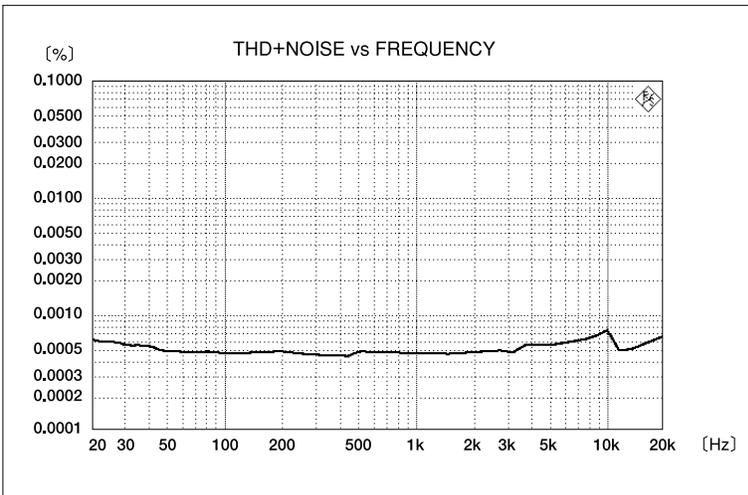
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

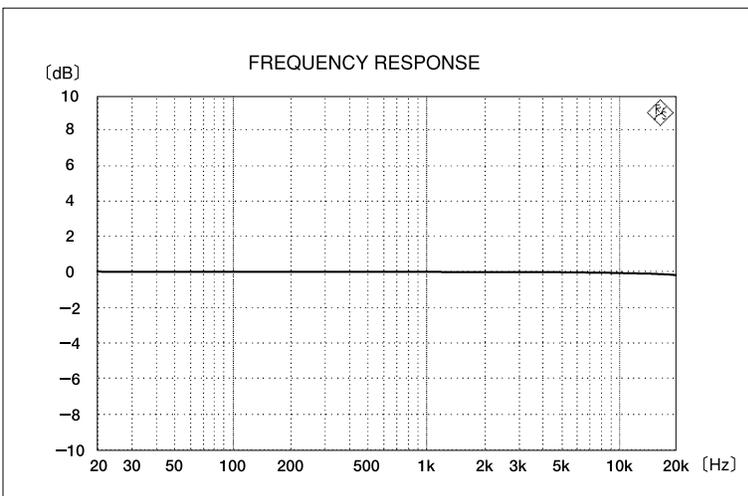
9. 特性グラフ



リニアリティ(デジタル入力対アナログ出力)

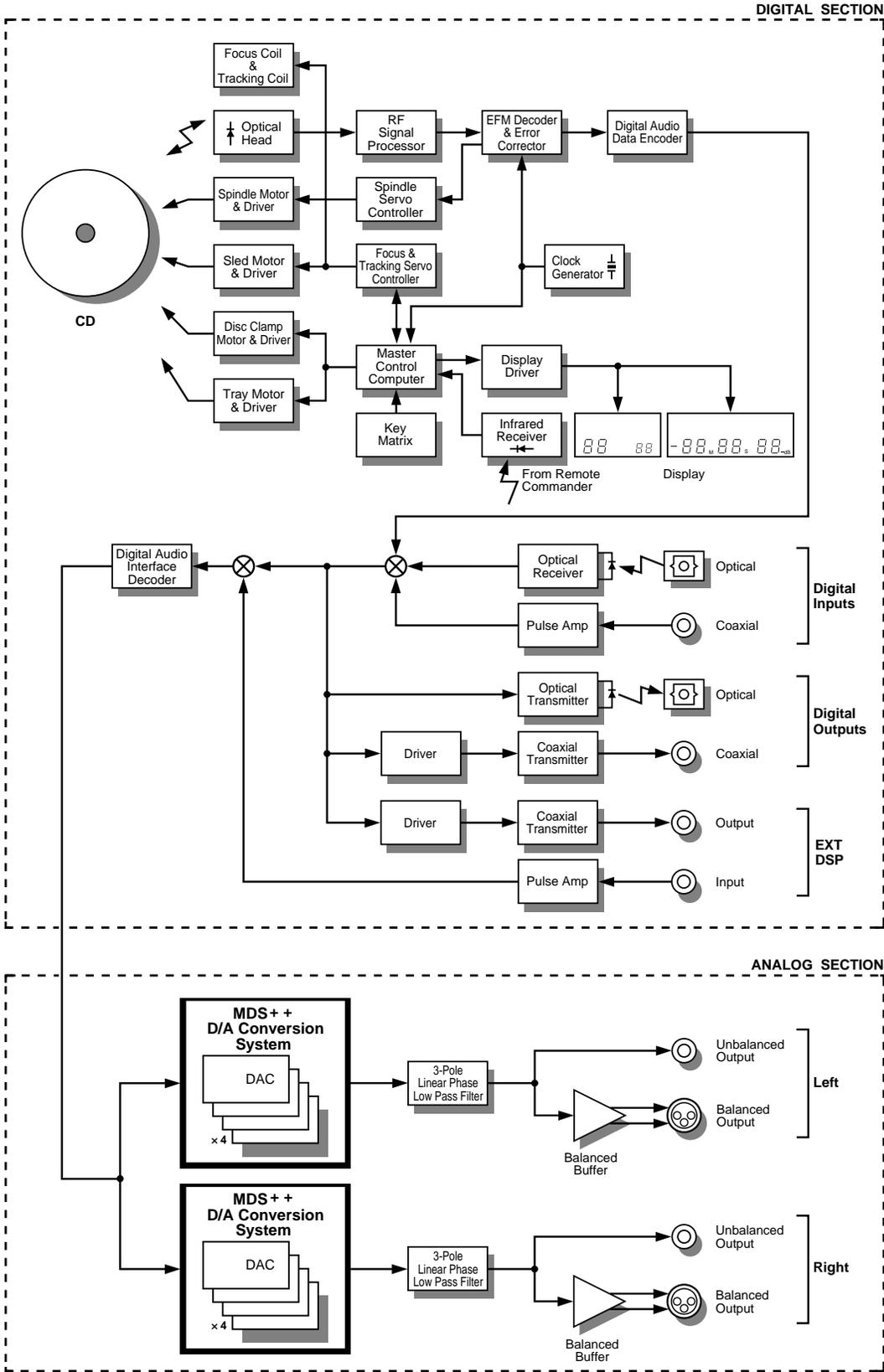


全高調波ひずみ率(雑音を含む)対周波数特性



周波数特性

10. ブロック・ダイアグラム



11. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。



注意

：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)

電源スイッチを入ると演奏が始まる

タイマー演奏に設定されている。(18ページ参照)

演奏が始まらない

ディスクが正常に装着されていますか。
低温時であれば、結露の可能性もあります。(4ページ参照)
CDプレーヤー動作ですか。……CD/PROCボタンを確認します。

音がでない。またはレベルが低い

CD/PROCボタンと入力切替ボタンを確認します。
リアパネル側の「EXT DSP」スイッチのON/OFFを確認します。……
ONの場合、「EXT DSP端子」に機器が接続されていなければ音は出ません。
出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。
リモート・コマンダーのLEVELボタンで出力レベルを確認します。

音が途切れたり雑音が出る。
演奏途中でディスクが止まる

ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。
接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
光ファイバーはEIAJ規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側から音が出ない

出力コードを左右入れ替えます。
同じ側から音がでない……アンプ側に原因が考えられます。
左右逆になる……本機に原因が考えられます。

リモート・コマンダーで操作できない

電池は入っていますか。
新しい電池に交換してみましょう。
受光部付近に障害物はありませんか。

外部接続機器の出力がない

プロセッサー動作ですか。……CD/PROCボタンを確認します。
周波数ロックはされていますか。(19ページ参照)……
光ファイバー、同軸それぞれのケーブルをお確かめください。

EXT DSPスイッチON時に音が出ない

「EXT DSP端子」に機器が接続されていない。または、接続されていても電源が入っていない。
「EXT DSP端子」に接続された機器は周波数ロックされていますか。
(22ページ参照)

12. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。
 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
 オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。
 使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡ってご使用の場合には、当社の定期的な点検をお勧めします。

その他

改造されたものは修理ができない場合がありますのでご了承ください。
 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
 AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店にお問い合わせいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
 〒225-8508 横浜市青葉区新石川2-14-10
 TEL 045(901)2771(代表)
 FAX045(901)8995

当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/service/>

修理依頼の場合には

“故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

モデル名、シリアル番号	ご住所、氏名、電話番号
ご購入日、ご購入店	故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 - 14 - 10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)